

LAZONA^{ラゾーナ}

藤尾歴史散歩

藤尾学区まちづくり協議会設立準備委員会 歴史文化部会



第6回 琵琶湖疎水 藤尾出口

都であった京都は多くの人口を抱えていたため用水に困っていました。東京遷都（明治2年）により衰退していく京都の起死回生策として「琵琶湖疎水」が計画され、明治23年（1890年）4月に、約5年の歳月をかけて完成しました。

大津市三保ヶ崎（東口）から藤尾口（西口）までを貫通させた2346 mのトンネルは、当時としてはわが国最長のものでした。しかも、設計から測量・工事に至るまで、外国人の手を借りずに、全て日本人だけで完成させた画期的なものでした。



● 琵琶湖疎水・旧称藤尾運河（現：桜ヶ丘）

京の都を支える藤尾の水路



トンネルの東西出入口には、古代ベネチア様式の洞門が施され、この藤尾西口には、山縣有朋の揮毫による篆刻文字の「^{みつきゆうよ}廓具有容」（地形がいったん狭まって更に広がってゆく景色を表している）の石額が掲げられています。

この日本初の大工事を担当したのは、東京工部大学（現東京大学工学部）を卒業したばかりの青年技師田邊朔郎（22歳、後に京都大学教授でした。

（文・松井佐彦）

歴史文化部会からご報告

「第5回 小関越道標と喜一堂」の歴史散歩の中で、喜一堂の成り立ちについて貴重なご意見を郵送して頂きました。匿名の為直接お話をお聞きできないのが残念ですが、歴史文化部会ではさらに取材を重ねていきたいと思っています。

ご意見をありがとうございました。

バックナンバーご希望は市民センターまで

